

Introduction of Seoul Upgrade Projects

Jung, You-Seung  
Dealim Development operation division Managing director.

## 1 プロローグ

ソウルは短い期間に急速度で開発された。これは量的な側面での開発であるが質的な側面では都市環境を十分に考察されていない状態である。このような指摘によって最近、都市景観改善に対する関心が高まっている。

ソウルの景観改善のための努力は官公署の主導で始まり、民間も積極的に景観改善に同参している。1992年ソウル市役所に都市景観課を新設し、共同住宅の景観審議で景観の管理に関心が始まったが、惜しくも1998年建築課と統合され、都市景観一つのチームで専属するようになった。しかし2001年景観管理の大切さを認識したソウル市の政策変化に従って都市環境改善事業組(2003年都市整備組で名称変更)という課として拡がり、その中で六つのチームで構成され、ソウル市の景観改善事業を本格的に推進するようになった。

まず景観要素を分析すると昼間景観と夜間景観で分け、昼間景観を構成している要素は建物の外観デザインや看板、ストリートファニチャなどである。最近、関心が高まっている夜間景観は一般的な照明施設より、建物を含め各々の施設物を美しく照明する夜間景観照明を主な要素にしている。

現在、このような景観要素を主な対象として都市整備組で景観改善を主導している。公共性がある景観要素の改善事業の分野では伝統韓屋の外観復元事業や夜間景観照明事業、通りの施設物デザイン改善事業、広告物の改善事業などがある。民間の場合は各建設会社のブランド価値を高めるため、共同住宅の外観デザインの特化や附帯施設の標準CI開発及び屋外環境改善などに力を注いでいる。

以外にもソウル市の多くの部署で清溪川復元事業など個別的に景観改善事業を推進している。

## 2 ソウル市の景観改善事業の現況紹介

### 2-1. 夜間景観照明

#### 2-1-1夜間景観管理の導入

1997～2000年 市役所の建築課の都市景観チームで夜間景観管理の基本計画の樹立  
-海外例の調査(リヨン、パリ、横浜、上海、シンガポール

など)

-体系的な夜間景観の基本計画の樹立

2001～2002年 都市環境改善事業組で地域別の夜間景観事業計画の樹立

-漢江沿い、都心内の公共施設物の夜間照明事業の計画樹立及び本格に推進

1段階(1997～2000)	2段階(2001～2006)	3段階(2007～)
点的、個別的な演出段階	線的、連続的な演出段階	面的、立体的な演出段階
照明対象の個性強調	都市構造の浮上	全般的にパノラミックな景観
一部ランドマーク、建築照明	漢江沿い、主要街路辺(文化探訪路、清溪川辺の街路施設物)線形の集中照明	民間建築物の照明拡散

#### 2-1-2 夜間景観照明の段階

#### 2-1-3 夜間景観照明の拡散

1999年以後、建築上の夜間照明分野を新設-建築物及び施設物の夜間照明柔道

2001年 大型建築物の建築審議の時、夜間照明を積極奨奨- 民間建築物の夜間照明拡散

現在 全施設物の基本計画の時、夜間照明は基本的な検討事項として認識されている。

#### 2-1-4 2004年、現在夜間景観照明の施設現況

公共施設物77件(橋脚14件、文化財26件、その他37件)



民間建築物94件

#### 2-2 伝統韓屋の外観復元事業(北村の環境改善